福井県里山里海湖研究所
中期計画

（平成 25～29 年度）

平成２６年３月

福井県里山里海湖研究所

福井県里山里海湖研究所中期計画　目次

1　福井県の里山里海湖について----------　P 1

2　基本理念----------　P 3
（1）生物多様性　（Bio - diversity）
（2）生活多様性　（Lifestyle - diversity）
（3）景観多様性　（Landscape - diversity）

3　活動および運営の方針----------　P 4
○研究【地域に貢献する実学研究（Science for society）】
○教育【里山里海湖を「体験」し、「感性」を育む】
○実践【次世代につながる持続可能な里山里海湖の保全・再生・活用】

4　中期計画の目標----------　P 5
○研究の目標
○教育の目標
○実践の目標

5　目標を達成するための具体的な施策----------　P 7
（1）研究所によるフィールド活動
（2）地域に貢献する実学研究の推進
（3）里山里海湖資源と研究成果を活かした人材育成
（4）里山里海湖の次世代への継承

6　組織----------　P11

1 福井県の里山里海湖について

(1) 里山里海湖の特徴

本県は、豊かな降水量と四季の変化に富んだ気候に加え、水源となる豊かな広葉樹林、複雑に入り組んだ谷筋、豊かな土壌といった自然条件にも恵まれ、古くから、二次林と水田の入り混じった、いわゆる「里山」が形成されてきた。

加えて、比較的狭い地域の中に、山、里、川、海、湖があり、そこには多様なタイプの生態系が存在し、典型的な日本の里山里海湖風景が凝縮している。

また、米・そば・海産物など里山里海湖に培われた食材、和紙・漆器など里山里海湖の素材を活かした工芸品、県内各地に伝わる自然を敬う祭礼・習俗など、本県独自の豊かな里山里海湖の多様性も存在している。

(2) 福井県の里山里海湖の現状

本県の里山里海湖の環境は、自然と人が適切に関わることにより守られてきたが、近年、市街化などの開発の進行（宅地面積1992年156k㎡、2011年185k㎡「福井県の土地利用と土地対策」より）や、高齢化（65歳以上割合26.9%「福井県の推計人口（平成25年10月1日現在）」より）などにより、里山里海湖などの利用や管理が適正に行われなくなり、生き物の生息・生育環境が失われつつある。

かつてはどこでも見ることができたホタルやトンボなどの身近な生き物が生息・生育環境の変化により減少している（福井県レッドデータブック掲載動物371種（2002年）、植物458種（2004年））。このため、祖父母や父母、子どもの世代間で豊かな自然のイメージの共有が難しくなるとともに、特に若い世代では、自然とふれあう機会も少ないため自然の価値の認識が希薄になってきている。

一方で、里山里海湖保全・再生・活用に向けた新たな動きも活発化してきており、問題認識を持つ県民も増えてきている。具体的には、越前市白山・坂口地区におけるコウノトリとの共生を目指した米作りや、平成２４年に自然再生推進法に基づき中部圏で初めて誕生した「三方五湖自然再生協議会」などが挙げられる。

(3)　「福井県里山里海湖研究所」の設置について

平成２５年９月に、人の営みと自然とが調和し共生する社会を目指すための国際会合「ＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ国際パートナーシップ第４回定例会合（ＩＰＳＩ－４）」が本県で開催された。この会合では、県民の里山里海湖保全の意識醸成が一層図られ、福井の里山の保全・再生活動が世界へ広く発信された。また、里山里海湖の資源を守っていくためには、専門的な学問や科学の支えが重要であるとともに、多くの人々が自然体験や自然再生活動を行うことや、農家や林家、漁家の方々が日常営む生活や生産活動などと直接結びついた里地里山活動を進めていくことが重要であるという認識が共になされた。

これを契機に「県民のため、社会のため、実社会に役立つ研究を行い、美しい風土を残しながら福井という地域のみんなが元気になる。」ことを目指し、県は「福井県里山里海湖研究所」を平成２５年１０月３０日に開所した。

2 基本理念

研究所は、本県の「生物多様性」、「生活多様性」、「景観多様性」の三つの多様性を育み、地域を元気にすることを基本理念とする。

（1）生物多様性　（Bio - diversity）

多様な土地利用と人の営みの中で育まれる生き物の賑い

○生物生存の基盤となる「生物的自然環境の持続可能性」には、多様な土地利用による多様な生物（コウノトリ、サンショウウオ、イトヨなど）の保全と回復が不可欠である。

○多様な生き物が賑わう県土を県民の手で守り育てる。

（2）生活多様性　（Lifestyle - diversity）

地域社会が育む「地域それぞれの暮らし方や生き方」

○地域の資源を活かした生業（なりわい）（越前水仙の栽培、三方湖の「たたき網漁」などの農林水産業）から地域を支える多様な人材が生まれてくる。

○多様な人材を生み出し、その人材が福井に活力をもたらし、社会全体を元気にする。

（3）景観多様性　（Landscape - diversity）

生物多様性と生活多様性から招来される、多様な景観

○生き物が多い自然環境や元気な暮らしぶりから、棚田、そば畑や焼き鯖など、福井らしい表情が外に表れてくる。

○多様な景観を形作り、画一的な風景から脱却することにより、福井らしい里山里海湖の魅力を創出する。

3 活動および運営の方針

基本理念を踏まえ、研究所では、以下のように活動および運営を進める。

県民、自然再生団体、企業、行政など各種主体の参加と連携により、地域の個性に応じた「研究」、「教育」、「実践」を総合的に進める。

特に、県民からは多世代から参加を促すとともに、地域と共動して、元気な人材の輩出やビジネス機会の創出などの地域の活性化へとつなげる「地域を元気にする実学研究の拠点」としていく。

三つの大きな柱

○ 研究【地域に貢献する実学研究（Science for society）】

里山里海湖に関する研究者が、生物多様性を守り、その恵みを人々の暮らしに結びつける様々な研究を行う。

○ 教育【里山里海湖を「体験」し、「感性」を育む】

里山里海湖の自然を子どもから大人まで体感してもらい、その大切さを伝えるとともに、地域の保全・再生活動を担うリーダーを育成する。

○ 実践【次世代につながる持続可能な里山里海湖の保全・再生・活用】

里山里海湖の保全・再生・活用に頑張る地域や団体を応援や支援することにより、里山里海湖を次世代へ継承する。

4 中期計画の目標

基本理念と活動および運営の方針に基づき、概ね平成２５年度から２９年度までを期間とした、以下の目標を掲げる。

○研究に関する目標

(1) 研究者自らが地域に飛び込み、課題を把握し、その解決に向けた実学研究を行うとともに、その成果を国内外へ広く発信する。

(2) 国内外の試験研究機関と連携し、研究レベルの向上を図るとともに、研究成果を環境教育、実践活動、人々の暮らしへ反映し、地域の活性化につなげる。

(3) 福井を里山里海湖研究の先進地に推し進める。

○教育に関する目標

(1) 幅広い年代に里山里海湖の恵みに触れる場を提供し、里山里海湖を守る心を育む 。

(2) リーダーを育成し、里山里海湖保全・再生・活用の活動の質を高める。

(3) 県内の学校において、研究を活かした環境教育を実施し、子どもたちが里山里海湖の保全・再生について考える力を養う。

○実践に関する目標

(1) 里山里海湖の大切さを継承するため、研究所を、県民が気軽に集い、体験や活動ができる拠点とする。

(2) 自然再生団体、県民や企業など多様な主体による活動を応援し、活動への参加を促進する。

(3) モデルとなるフィールドを創り、里山里海湖の保全・再生活動を総合的に実施することにより、里の恵みの保全とその恵みを利用した生業を次世代への継承する機運を高める。

なお、上記の目標を遂行するため本県の里山里海湖の特徴を考慮し、概ね以下の分野について研究・教育・実践を進める。

○　環境考古に関する分野

・年縞を基に、過去の気候と人の暮らしの関わりを解明し、これからの生活に活用

・年縞を基にした科学学術的な研究、観光や教育面への活用および採取した年縞の活用

○　保全生態に関する分野

・県全域にわたる、里山、里海湖の生物多様性の保全・再生および生態系サービスの分析評価に関する研究

・地域住民、自然再生団体、企業等と共動して実施する自然環境の保全・再生・活用のプロジェクト等に直接参加し、研究成果を基に活動を支援

○　森里海連環に関する分野

・県内を中心に、森と海の生態系のつながりに関する研究

・地域住民、自然再生団体、企業等と共動して、豊かな海の生物多様性の保全・再生と「美しい海岸」を守るプロジェクト等に直接参加し、研究成果を基に活動を支援

○　里地里山文化に関する分野

・県内を中心に、里に伝わる伝統（農法、漁法等）、文化、習俗等の資料を収集、整理し、県民の生活に活かす研究

・地域住民、企業等と共動して地域の特色を活かした地域づくりのプロジェクト等に直接参加し、研究成果を基に活動を支援

5 目標を達成するための具体的な施策

中期計画の目標を達成するために、以下の具体的な施策を展開する。

なお、特に県土、県民が元気になる事業を「重点プロジェクト」と位置づけ、 重点プロジェクト と記した。

（1）研究所によるフィールド活動

① 「ふくい　ふるさと学びの森」での共動 重点プロジェクト

三方五湖周辺に「ふくい　ふるさと学びの森」を設置し、研究者、自然再生団体、地域住民と共動して、研究・教育・実践を総合的に行う。

身近なフィールドにおいて研究を実証することはもちろん、自然体験を通した環境教育の推進、研究成果の実生活への反映等に結びつける。

（2）地域に貢献する実学研究の推進

① 大学、試験研究機関との連携 重点プロジェクト

国内外の大学や試験研究機関と連携強化することで、研究員の交流促進や研究を進め、その研究の成果を、教育・実践に反映させ地域の活性化につなげる。

また、本県の里山里海湖のフィールドに、研究者・学生を受け入れ、調査・研究フィールドのメッカにする。

② 自然再生活動を研究により支援 重点プロジェクト

三方五湖自然再生協議会や中池見湿地、北潟湖等の自然再生団体と連携し、研究員の研究成果により、その活動を支援する。

③ 研究の活性化

研究所の研究内容や活動を学会で発表するとともに、各種研究の発表会を本県に誘致する。

④　ＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ国際パートナーシップ（ＩＰＳＩ）との連携

ＩＰＳＩ－５（平成２６年韓国平昌開催）への参加やＩＰＳＩ事務局（国連大学高等研究所）と連携しながら研究所の研究内容および活動を広く世界へ発信する。

（３）里山里海湖資源と研究成果を活かした人材育成

①　「里の遊び」の場の提供　重点プロジェクト

保育園、幼稚園、親子で行う自然体験や、小学校低学年において「里の遊び」の体験を支援することで、親子の環境教育の場を提供する。

②　「里の学校」の運営　重点プロジェクト

研究員が地元の小中学校に赴き、研究内容と地域の里山里海湖資源を活かした授業を行い、修了者には、「ふるさとジュニアマスター」に認定する。

③　地域での環境調査の実施

地域に生息する生き物や、水質などを観測・調査することにより、地域の環境を守る意識を育てる。

④　地域資源を活かした環境教育

小中学校の教科（理科、社会等）において、主に県内の里山里海湖資源を活用し、生物多様性、人の営み、景観についての授業が行える環境教育プログラムを作成し、各学校において実践する。

⑤　サマースクールの運営

子ども向けに夏休み等を利用した自然体験型イベントを主催し、子どもたちが実体験できる場を拡大する。また、単なる体験だけではなく、農林水産業を営む者からの聞きとりなどを織り交ぜながら、次世代の人材育成へとつなげる。

⑥　研究員講座の提供

研究員が県内市町の学校や公民館に赴き、研究所での研究内容の講座をするほか、研究内容や成果の発表を行う。

⑦　体感プログラムの提供

里山里海湖に関心が低いといわれる若者などを対象に農業、林業、漁業などの実体験を通じて、楽しみながら、生業の重要性、里山里海湖の魅力や保全・再生の大切さを学ぶ講座を開設する。

⑧　里山里海湖リーダーの育成

地域で頑張る自然再生団体等の指導者のレベルアップを図るため、里山里海湖リーダーズカレッジを開設し、地域のコーディネーターを育成する。

⑨　環境教育実践事例集の作成

県内保育園、幼稚園、小中学校の環境教育の実践事例をまとめ、情報を共有することで、教育者のレベル向上を目指す。

（4）里山里海湖の次世代への継承

重点プロジェクト

①　「ふるさと研究員」の認定

地域で活躍する達人をふるさと研究員（農業、文化、環境、観光、民俗、ビジネス等）に認定し、単なる技術継承だけでなく、里山里海湖保全にかかる生業の意味合いについても次世代へ継承する。

②　体験講座の運営

研究所において、里山里海湖の体験が気軽にできる講座（梅もぎ、薪割り、炭焼き、ワラ細工作り等）を実施することにより県民が気軽に集える拠点としていく。

③　里の恵みの価値の発信

写真コンテストや検定試験等の県民参加型の催しを行うことにより、県民による里山里海湖の魅力と人の営み（生業）の重要性を再認識し、その価値を発信する。

④　サポート体制の充実

活動団体の表彰、専門家の派遣、資機材の貸出しなどを通して、活動者のやる気を育む。

⑤　里山里海湖相談窓口の開設

里山里海湖に関する相談に加え、春休みと夏休み期間には、「子ども身近な生き物相談コーナー」を開設する。

⑥　メディアを活用した情報発信

インターネット動画サイトやＳＮＳ（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）による情報発信に加え、テレビ、ラジオや新聞を活用して広く県民に情報を提供する。

⑦　ＳＡＴＯＹＡＭＡイニシアティブ推進ネットワークとの連携

本県と石川県が共同代表を務める推進ネットワークのイベント事業の本県での開催や研究所事業への推進ネットワークからの参加を促進する。

また、推進ネットワーク加盟の企業をはじめ、研究所と企業の連携を強化する。

6　組　織

「福井県里山里海湖研究所設置要綱」に基づき平成25年10月30日付けで設置

組織図

所　長　　進士　五十八　東京農業大学名誉教授

研究アドバイザー

- 安田　喜憲　東北大学大学院教授　（環境考古学）
- 鷲谷　いづみ　東京大学大学院教授　（保全生態学）
- 澁澤　寿一　NPO法人共存の森ネットワーク理事長（コミュニティ論）
- 養父　志乃夫　和歌山大学大学院教授　（里地里山文化論）
- 寺岡　英男　福井大学副学長　（教育方法学）

事務局

局長　野坂　雄二（福井県安全環境部企画幹（自然環境））

次長　吉田　浩樹

①研究事務員　細井　秀之　研究事務リーダー
黒川　光憲
坂川　和也
藤崎　博隆
西垣　正男（福井県自然環境課）　（兼務）
中元　鉄男（元福井県嶺南教育事務所所長）　（嘱託）
大岸　正彦（元小浜市立雲浜小学校校長）　（嘱託）

〔教育関係〕　脇田　典子（福井市岡保小学校校長）　（非常勤）
中村　正人（若狭町立瓜生小学校校長）　（非常勤）
荒川　誠　（福井県教育庁義務教育課）　（非常勤）
島田　正樹（福井県嶺南教育事務所）　（非常勤）
知場　克幸（福井県嶺南教育事務所）　（非常勤）

②研究員　4名　（4月1日採用）
吉岡　俊人（福井県立大学教授　（植物生態学））（非常勤）
富永　修　（福井県立大学教授　（海洋生物学））（非常勤）
田原　大輔（福井県立大学准教授　（魚類生態学））（非常勤）
松本　淳　（越前町立福井総合植物園園長（植物分類学））（非常勤）

③研究推進員　6名　（県試験研究機関職員）

○研究アドバイザー
研究所の全体の活動および各研究員の研究に対して助言および支援を行う。
○研究事務員
研究の普及、環境教育の推進、活動・実践の支援を行う。
○研究員
里山里海湖の保全・再生・活用の研究・教育・実践を行う。
○研究推進員
研究員の研究活動が円滑に進むよう協力する。

実施体制

福井県
里山里海湖
研究所

共動

連携

県内の機関等

■国立若狭湾青少年自然の家

■若狭町立若狭三方縄文博物館

■越前町立福井総合植物園

■県内市町
- 自然史博物館、民俗資料館等
- 教育委員会

■県試験研究機関・教育機関等
- 自然保護センター、海浜自然センター
- 歴史博物館、若狭歴史民俗資料館
- 農業試験場、水産試験場、総合グリーンセンター
- 教育研究所、嶺南教育事務所
- 奥越高原青少年自然の家、芦原青年の家、鯖江青年の家、三方青年の家等

■三方五湖自然再生協議会

大学

■東京農業大学
農山村支援センター

■東京大学

■立命館大学

■和歌山大学

■福井大学

■福井県立大学　等

機関等

■SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ
（国連大学高等研究所）

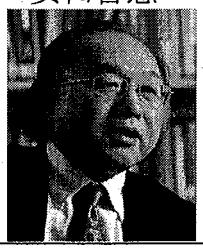
■SATOYAMA イニシアティブ推進ネットワーク
（石川県・福井県）

所長・研究アドバイザーのプロフィール

所　長

氏　名	所属組織、役職	専門分野等	主な著書等
進士五十八 	東京農業大学 名誉教授 一般社団法人 農あるくらし研究会 会長	農学博士　環境学、造園学	・グリーン・エコライフ（小学館） ・風景デザイン（学芸出版社） ・日本の庭園（中公新書） ・ルーラル・ランドスケープ・デザインの手法―農に学ぶ都市環境づくり（学芸出版社） ・生き物緑地活動をはじめよう―環境NPOマネジメント入門（風土社）

研究アドバイザー

氏　名	所属組織、役職	専門分野等	主な著書等
安田喜憲 	東北大学大学院 環境科学研究科 教授	環境考古学	・森と文明の物語―環境考古学は語る（ちくま新書） ・森のこころと文明（NHKライブラリー） ・文明の環境史観（中公叢書） ・奪われる日本の森:外資が水資源を狙っている（新潮文庫）
鷲谷いづみ 	東京大学大学院 農学生命科学研究科 教授	保全生態学、生態学	・コウノトリの翼:エコロジストのまなざし（山と渓谷社） ・さとやま:生物多様性と生態系模様（岩波書店） ・生物多様性入門（岩波書店） ・震災後の自然とどうつきあうか（岩波書店）
澁澤寿一 	NPO 法人共存の森ネットワーク 理事長	コミュニティー論、森林環境、バイオマス利用、教育普及、循環型地域づくり	・叡智が失われる前に　山里の聞き書き塾講義録（山里文化研究所） ・森の名人ものがたり（アサヒエコブックス 13）
養父志乃夫 	和歌山大学大学院システム工学研究科 教授	里地里山文化論、農学博士、造園学、自然生態工学、環境社会学	・アジアの里山　食生活図鑑(柏書房) ・里山・里海暮らしの図鑑-いまに活かす昭和の知恵-（柏書房） ・ビオトープづくり実践帖（誠文堂新光社） ・里地里山文化論、上・下巻（農文協） ・田んぼビオトープ入門（農文協）
寺岡英男 	福井大学 副学長・理事（教育・学生担当）	教育方法学（授業、カリキュラム、学力）、教師教育	・教師教育改革のゆくへ　教師教育改革の試みと課題（創風社） ・確かな学力と指導法　教師の実践的指導力を育てるには（図書文化）

福井県里山里海湖研究所

〒919-1331

福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-31-1

Tel:0770-45-3580　Fax:0770-45-3680

Mail:satoyama@pref.fukui.lg.jp